



令和7年9月1日発行
ありんこ親子保育園
園長 中嶋 悅子

日中は夏と変わらない暑い日が続いますが、だんだんと日が落ちるのが早くなってきた気がする今日この頃。夏の疲れも出やすい時期です。今月より運動会練習も本格的に始まりますので、無理のないスケジュールで楽しめる工夫をしていきたいと思います。

さて、「毎日顔を合わせる保育士さんたちって、どんな仕事をしているの?」と、保育士さんの仕事が気になることってありませんか? 保護者の皆さまにとって、保育士は「子どもを預かり、保育する人」というイメージが強いかもしれません。しかし、保育士の仕事はとても幅広く、園児一人ひとりの成長を支える大切な役割を担っています。今回は、日頃なかなかお伝えできない「保育士の仕事」についてご紹介したいと思います。



子どもたちの生活を支える仕事

朝、園児が登園すると、保育士は笑顔で迎え、一人ひとりの体調や表情を観察します。「元気に来られたかな?」「ちょっと眠そうかな?」といった小さな変化を見逃さず、その日の保育に活かします。園での生活は、食事・排泄・午睡・遊びなど、いわば「生活のすべて」が保育です。子どもたちが安心して過ごせるように、環境を整え、必要なサポートをするのが保育士の大きな役割です。

特に低年齢児では、おむつ替えや食事の介助、午睡時の見守りなど、保育士のきめ細やかな関わりが欠かせません。単に「世話ををする」のではなく、一つひとつの場面を子どもの発達につなげられるように意識しています。たとえば、スプーンの持ち方と一緒に練習することも、トイレトレーニングのサポートも自立への大切なステップなのです。

1日の流れの中での保育士の役割

⌚ 朝の受け入れ

登園時には、子どもの表情や体調を細かく観察し、保護者の方との会話を通じて家庭での様子を把握します。小さな変化にも気づけるよう、丁寧なコミュニケーションを心がけています。

🎨 活動・遊びの時間

子どもたちの興味や発達段階に合わせた遊びや活動を通して、創造力・社会性・身体能力などを育みます。友だちとの関わりを見守りながら、時には仲裁し、時には励まし、成長を支えます。

🍽 食事・排泄・午睡

生活習慣の自立を促す大切な時間。食事のマナーやトイレトレーニングなど、日々の積み重ねが子どもたちの自信につながります。

📝 降園時の対応

保護者の方にその日の様子を伝え、家庭との連携を深めます。子どもの成長や気になる点を共有することで、安心して園生活を送れるようサポートします。



遊びを通して学びを育む仕事

保育士の仕事の中心は「遊び」です。遊びの中で子どもは、考えたり、挑戦したり、友だちと協力したりしながら大きく成長していきます。砂場で山を作るときも、友だちと空き箱で製作活動をするときも、ただ遊んでいるだけではなく、手先の発達、想像力、社会性など、多くの学びが隠れています。

保育士は、こうした遊びの中で「どんな学びが育まれているか」を見極め、時には手助けし、時には見守ります。また、年齢や発達に応じて遊びを工夫し、子どもたちが「やってみたい！」と思える環境を用意することも仕事のひとつです。



安全を守る仕事

園で過ごす時間は、子どもたちにとって家庭と同じくらい長い時間です。そのため、保育士は「安全を守ること」に強い責任を持っています。園庭遊びや散歩のときには常に子どもから目を離さないよう心がけ、事故が起きないように注意します。もし、けがや体調不良が起きたときには、適切な処置と保護者への迅速な連絡を行います。何かあれば職員会議で共有し、振り返りを行い改善に努めています。

また、防災訓練や不審者対応訓練などを定期的に行い、子どもたちと一緒に「自分の身を守る力」を育てていくのも保育士の大切な役割です。



保護者と繋がる仕事

保育園での子どもの姿を知りたいと思うのは、保護者にとって当然のことです。保育士は連絡帳や送迎時の会話、コドモンでの発信、ブログやインスタグラム、保護者面談や懇談会などを通じて日々の子どもの様子をお伝えしています。同時に、保護者からの声を聞くことで、家庭での生活や成長の様子を共有し、子どもへの理解を深めています。園と家庭が一緒に子育てをしていくためには、こうした双方向のコミュニケーションが欠かせません。



計画と記録を行う仕事

保育士の仕事は、子どもと過ごす時間だけではありません。見えないところでの準備や記録も、保育の質を高めるために欠かせない大切な業務です。子どもたちの発達を踏まえ、年間計画や月案を立て、計画的に保育を進めます。また、日誌や記録を通して子どもの姿を振り返り、次の保育に活かします。これらの記録は、園全体で子どもの成長を支えるための大切な資料であり、万が一の事故やトラブルが起きた際にも必要になります。裏方の仕事ではありますが、とても重要な役割です。

- 保育計画の作成（年間指導計画・月週案など）
- 子どもの発達記録（要録）や連絡帳の記入
- 行事や季節の活動の準備・環境構成（起案）
- 職員同士の話し合い（職員ミーティング記録）や研修参加
- 保護者面談や相談対応

これらの業務を通じて、子どもたちの「今」と「これから」を見据えた保育を行っています。



関係機関との連絡協議機、小学校との連携

関係する行政機関や小学校、支援学校、保健師、臨床心理士などが年に1回来援し、実際に子どもと接しながら連絡協議会を行っています。また、各小学校と連携を図り、年長の担任が就学に向けての会議に参加したり、個別で相談したり、園児が小学校へ訪問して交流をしたりしながら、スムーズに就学できるように保育園と小学校で連携を行っています。



地域と繋がる仕事

最近では、保育園が地域の子育て支援拠点としての役割を担うことも増えてきました。園庭開放や子育て相談、地域の行事への参加などを通して、保育士は「園の外」ともつながりを持っています。地域の子育てを支える存在として、保育士の役割はますます広がっています。



最後に

このように、保育士の仕事はとても幅広く、また責任の大きい仕事です。子どもたちの笑顔に囲まれながら、日々たくさんの工夫や努力を重ねています。

「保育士さんって大変でしょう？」と聞かれることもありますが、確かに保育士の仕事は大変な部分もあります。しかしながら、他では味わえない「喜び・感動・幸せ」がたくさんあり、達成感があり、やりがいのある仕事です。私たち保育士の一番の喜びは、子どもたちの笑顔と成長です。子どもが感動したときの目の輝きや、できなかったことができた時の喜びの笑顔を見ると、「保育士になってよかったです！」と思うことでしょう。

そして、保護者の皆様が私たちの仕事を喜んでいただけたら、自分たちの役目を全うできたと達成感を感じます。ですから、保護者の皆様からの励ましのお言葉や保育の感想が聞けたときは、職員全員で大変喜んでいます。

良い時は一緒に喜び、そうでない時も一緒に考え乗り越えていけるよう、保護者の皆様にとって、保育士が少しでも身近に感じられれば幸いです。これからも「子どもたちの最善の利益」を第一に、園とご家庭、そして地域が協力し合って子育てを支えていきたいと思います。

